

新刊紹介

高橋宗生編著『變動するインドネシア(二〇〇一〜二〇〇五)―政治・経済・社会関連インドネシア語雑誌記事・論文解題』

高橋宗生



アジア経済研究所
2006年

本文献解題は、インドネシア語雑誌八誌に掲載された社会科学関連の四ページ以上の記事・論文二七二〇点を採録し、それぞれ五〇字前後の注釈を加えたものである。全体の構成は、「政治」、「経済」、「社会」その他、「学術論文」の四部と索引から成り、各部の冒頭では、収録記事の全体像に関する三ページ前後の解説を掲載している。本文献解題は一九九六〜二〇〇〇年版(非売品)に続く二度目の出版であり、前回同様現地語の情報誌、特に週刊誌記事を

主体に、その報道内容を時系列的に整理・解説することで、インドネシアの五年間の変容を跡付けようと試みている。

前回と比べると、次の四点にわたる改善が施された。

①雑誌の欠号分をアジア経済研究所図書館外で補い、雑誌の継続性を確保した。②各記事・論文に通しのアイテム番号を振り、巻末の索引項目に付した同じ番号から各記事へのアクセスを可能にした。③各部冒頭の解説の中に記事のアイテム番号を挿入し、そこから各記事へアクセスできるようにした。④各ページに柱(ヘッダー)を設け、情報誌記事は発行年月、学術論文は主題、索引はローマ字アルファベットの頭文字からそれぞれ引けるようにした。

以下、各部に収録された記事・論文の主要なテーマを紹介する。

第一部「政治」(七五四点収録)には、二〇〇四年大統領直接選挙に代表される政治の民主化、アチエ、パプアの分離独立運動、地方分権化続発するテロと対策、食糧調達庁基金関連汚職事件とその政界への影響、人権活動家毒殺事件、アチエ和平、などに関する記事が収録されている。国際政治関連記事も多く、米国のアフガン空爆、イラク攻撃に対する国民や政党・団体の反応に関する多くの記事を含みつけることができる。

第二部「経済」(二一六六点収録)で扱う記事は、インドネシア経済の諸問題、特に汚職と経済犯罪に焦点

を当てたものと、*Warta Ekonomi* 誌掲載のビジネス情報記事とに大別できる。前者は複数の銀行を舞台にした巨額資金不正流用事件に加えて、銀行再建庁、総選挙委員会、宗教官など国家機関の汚職、ならびに木材砂糖などの密輸事件を報道した記事が多く、後者はビジネス環境の分析と日々進歩するIT関連技術・商品扱う記事が中心となっている。

第三部「社会、その他」(五三二点収録)には、各種社会問題、司法、教育、マスコミ、環境、災害、医療、ジェンダー、犯罪などの多種にわたるテーマを扱った記事が収録されている。中でも、スハルト元大統領三男の犯罪・逃亡・裁判・獄中生活と、アチエにおける大津波の傷跡に関する記事は特に多い。

第四部「学術論文」(二二六八点収録)においては、学術誌五誌に掲載された論文を情報誌同様に「政治」、「経済」、「社会、その他」に分類し、さらに著者名のアルファベット順に排列した後、タイトルの翻訳を付している。「政治」においては民主化選挙、地方自治・分権化、地方における紛争、「経済」においては第一次産業を中心とする各産業や財政・金融をテーマとする論文が多くみられた。「社会、その他」においては、憲法、総選挙関連法、領土・領海関連法、土地法など、法律関連論文が中心となっている。

主題分類で悩んだことの一つは、膨大な数に及ぶ汚職(疑惑を含む)

事件の報道記事を「政治」、「経済」、「社会、その他」のどこに振り分けるか、という点であった。影響を及ぼした分野を重視したが、多面性を持つ複雑な事件が多く、「汚職」として独立した主題を立てるべきだったかもしれない。

巻末に収録した人名、地名、国名、団体・機関名、企業名、その他からなる計二千数百項目の索引は、アクリム、省略語、通称名などからも各記事・論文へのアクセスが可能である。この索引には様々な使い方があり、例えば、一つの人名項目から、その人物の各分野での関わりを調べようと思えば、右側の同じ番号が示す各記事にアクセスすることでそれを確認できる。著名な人物が意外な分野で活動していることが判明したり、その人物の団体・機関、企業との接点が見らるかになる可能性もある。インドネシアと他国との関係も、英語表記の各国名から各記事へアクセスすることで可能になる。より大雑把な使い方の一例をあげると、「政治」↓「経済」↓「社会、その他」と昇順になるアイテム番号をみて、全八誌という数量的制限はあるものの、各国がインドネシアと関わる分野を大枠で把握することもできよう。アイテム番号が示す各記事の注釈を讀むと、インドネシアのマスコミが注目する諸外国の日本で知り得ない側面がみえてくるかもしれない。

(たかはし むねお/アジア経済研究所研究支援部)